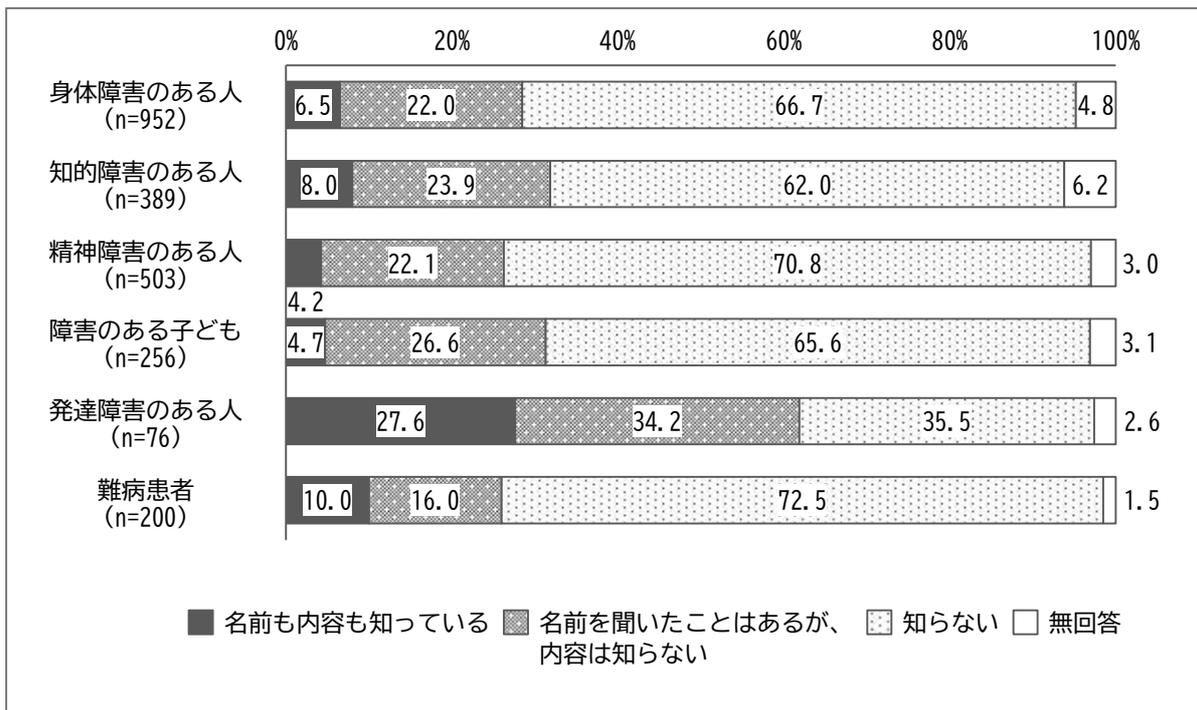


第4節 人権や差別問題に関する法律・条例

障害者差別解消法・北九州市障害者差別解消条例について知っているか尋ねたところ、「名前も内容も知っている」と「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた割合は、発達障害のある人を除く障害種別において2割半ば～3割となっています。一方、発達障害のある人では「名前も内容も知っている」と「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせた割合は6割となっており、他の障害種別よりも高くなっています。

【障害者差別解消法・北九州市障害者差別解消条例について知っているか】





## 第4章 市政モニターアンケート



令和7年度  
第8回市政モニターアンケート

「障害福祉施策について」

総務市民局広聴課

目 次

I 調査の概要	107
II 市政モニターの構成	107
III 調査結果	108
1. 障害のある人への理解や関心について	108
2. 北九州市の障害福祉施策の取組状況について	121
3. 共生社会を実現するための取組について	124
IV 全体考察	129

## I 調査の概要

調査対象者	市政モニター102人		
回答者数	88人（回収率86.3%）		
調査実施日	令和7年10月1日～令和7年10月14日		
実施方法	インターネット調査		
調査実施課	総務市民局広聴課	TEL	093-582-2527
調査依頼課	保健福祉局障害福祉企画課	TEL	093-582-2453

## II 市政モニターの構成

	合計	男性	女性		合計	男性	女性
全体	102 (100.0%)	44 (43.1%)	58 (56.9%)	区別			
10歳代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	門司区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
20歳代	6 (5.9%)	4 (3.9%)	2 (2.0%)	小倉北区	21 (20.6%)	11 (10.8%)	10 (9.8%)
30歳代	14 (13.7%)	4 (3.9%)	10 (9.8%)	小倉南区	21 (20.6%)	8 (7.8%)	13 (12.7%)
40歳代	22 (21.6%)	7 (6.9%)	15 (14.7%)	若松区	4 (3.9%)	1 (1.0%)	3 (2.9%)
50歳代	24 (23.5%)	5 (4.9%)	19 (18.6%)	八幡東区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
60歳代	26 (25.5%)	17 (16.7%)	9 (8.8%)	八幡西区	23 (22.5%)	8 (7.8%)	15 (14.7%)
70歳以上	10 (9.8%)	7 (6.9%)	3 (2.9%)	戸畑区	7 (6.9%)	2 (2.0%)	5 (4.9%)

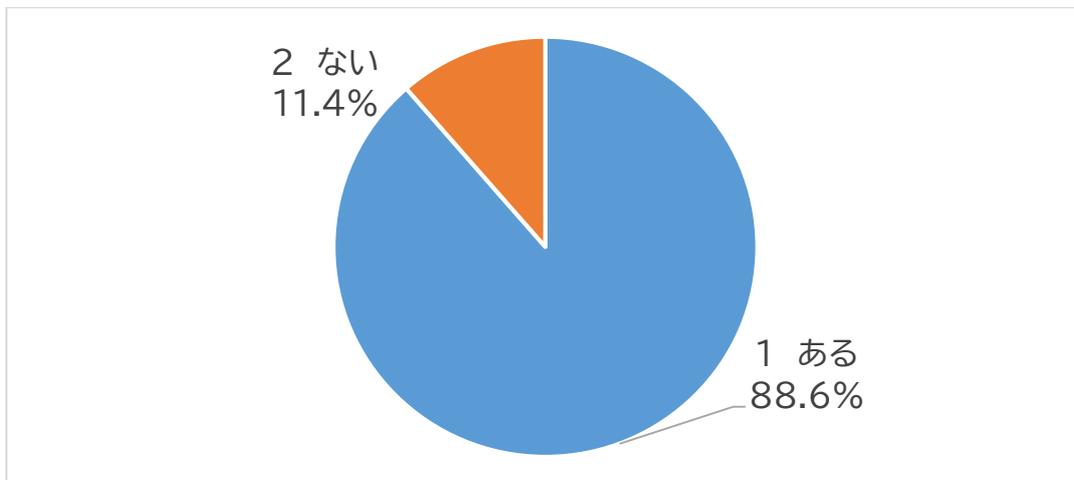
※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としており、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

※ 年代は令和7年4月1日時点でのものです。

### Ⅲ 調査結果

#### 1. 障害のある人への理解や関心について

問1 あなたは、今までに障害のある人に接したり、交流したりした経験がありますか。

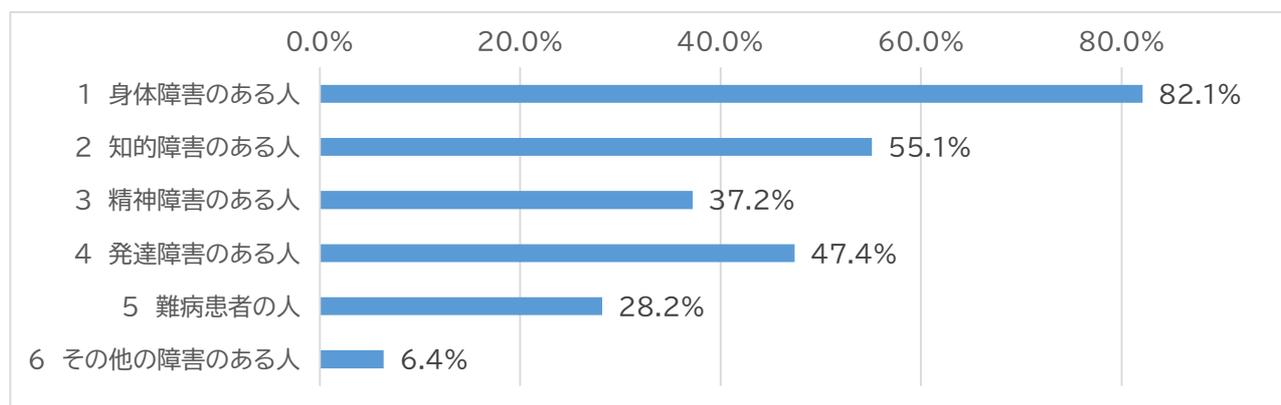


		回答者数	1 ある	2 ない
全 体		88人	88.6%	11.4%
性 別	男 性	40人	82.5%	17.5%
	女 性	48人	93.8%	6.2%
年 齢 別	20歳以下	4人	100.0%	0.0%
	30歳代	11人	90.9%	9.1%
	40歳代	19人	84.2%	15.8%
	50歳代	22人	90.9%	9.1%
	60歳代	22人	81.8%	18.2%
	70歳以上	10人	100.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12人	100.0%	0.0%
	小倉北区	19人	84.2%	15.8%
	小倉南区	17人	94.1%	5.9%
	若 松 区	4人	100.0%	0.0%
	八幡東区	11人	72.7%	27.3%
	八幡西区	18人	94.4%	5.6%
	戸 畑 区	7人	71.4%	28.6%

障害のある人に接したり、交流したりした経験が「ある」は、88.6%で、年齢別では、20歳代以下と70歳以上が100.0%と最も高くなっています。

## 問2 &lt;問1で「1 ある」と答えた方におたずねします&gt;

それはどのような障害のある人に接したり、交流したりしたのですか(○はいくつでも)

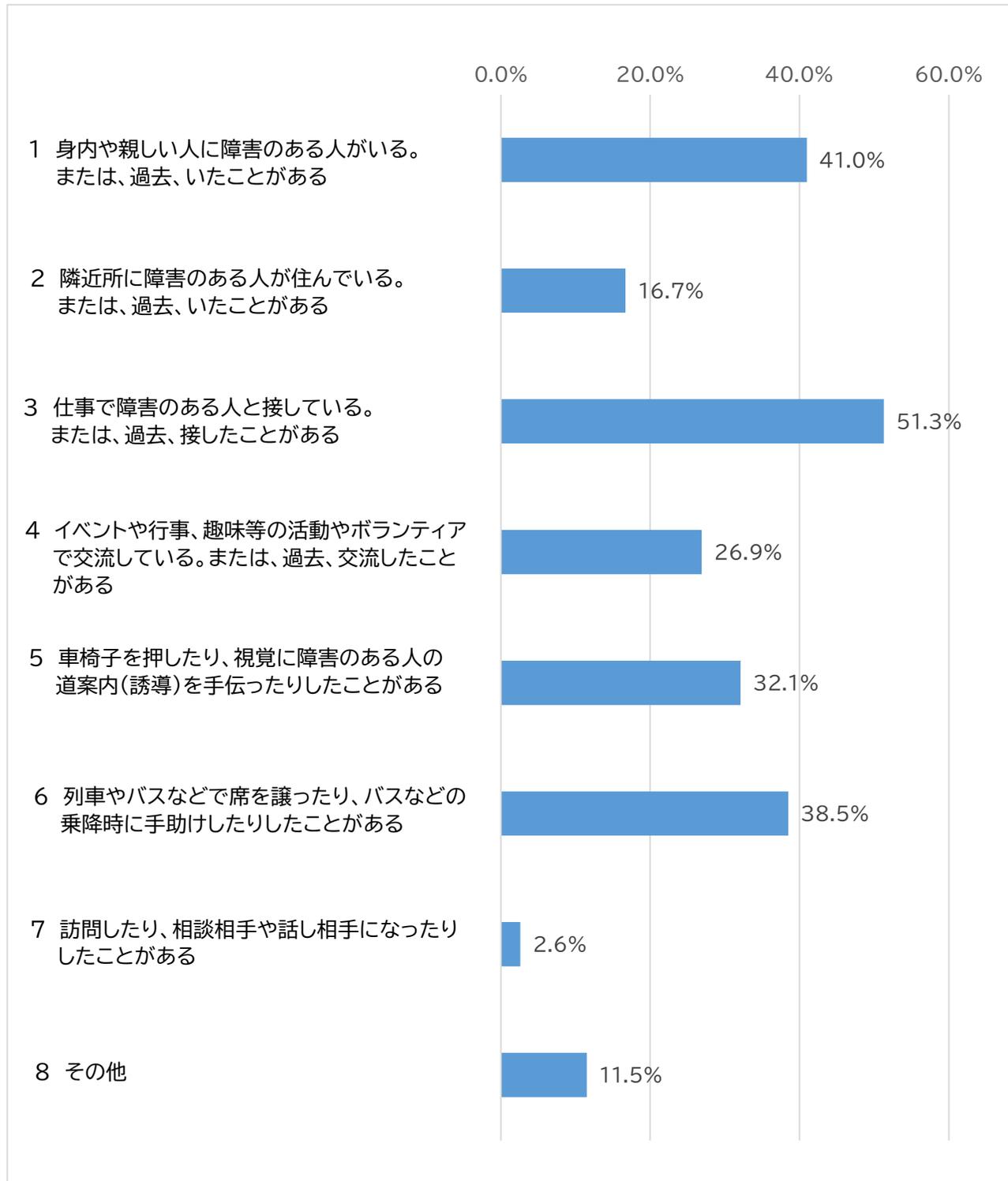


		回答者数	1 身体障害のある人	2 知的障害のある人	3 精神障害のある人	4 発達障害のある人	5 難病患者の人	6 その他の障害のある人
全体		78人	82.1%	55.1%	37.2%	47.4%	28.2%	6.4%
性別	男性	33人	81.8%	51.5%	21.2%	42.4%	18.2%	12.1%
	女性	45人	82.2%	57.8%	48.9%	51.1%	35.6%	2.2%
年齢別	20歳以下	4人	75.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	10人	80.0%	70.0%	50.0%	60.0%	30.0%	10.0%
	40歳代	16人	75.0%	50.0%	56.3%	56.3%	31.3%	0.0%
	50歳代	20人	90.0%	60.0%	40.0%	55.0%	35.0%	35.0%
	60歳代	18人	72.2%	50.0%	38.9%	50.0%	33.3%	11.1%
	70歳以上	10人	100.0%	20.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	12人	91.7%	16.7%	50.0%	58.3%	25.0%	25.0%
	小倉北区	16人	75.0%	62.5%	31.3%	37.5%	25.0%	0.0%
	小倉南区	16人	81.3%	68.8%	43.8%	50.0%	37.5%	0.0%
	若松区	4人	100.0%	100.0%	50.0%	75.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	8人	75.0%	50.0%	37.5%	50.0%	25.0%	0.0%
	八幡西区	17人	88.2%	58.8%	23.5%	47.1%	23.5%	5.9%
	戸畑区	5人	60.0%	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%	20.0%

障害のある人に接したり、交流したりした経験では、「1 身体障害のある人」との交流等が82.1%と最も高くなっています。

年齢別では、70歳以上が100.0%と最も高くなっています。

問3 <問1で「1 ある」と答えた方におたずねします>  
それは具体的にどのようなことですか(〇はいくつでも)

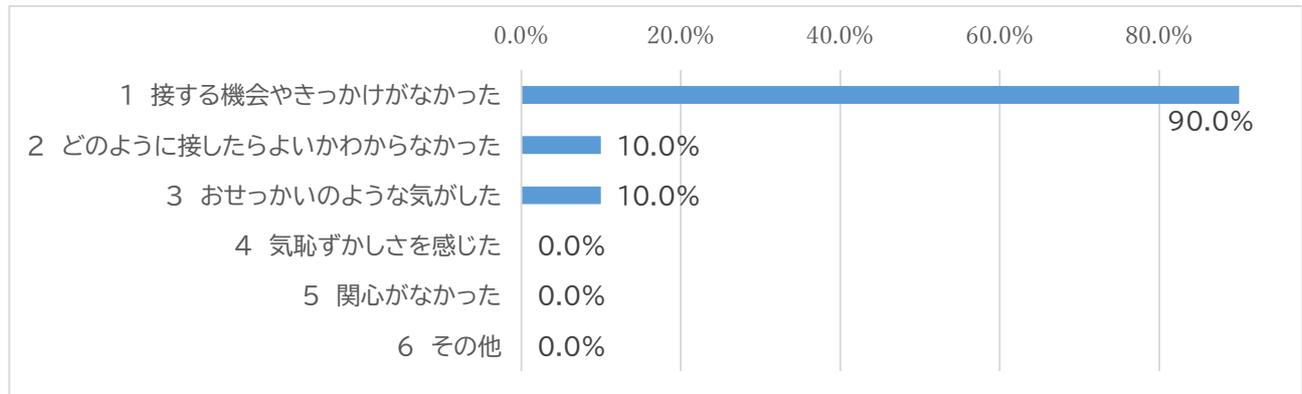


		回答者数	1 身内や親しい人に障害のある人がいる。または、過去、いたことがある	2 隣近所に障害のある人が住んでいる。または、過去、いたことがある	3 仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある	4 イベントや行事、趣味等の活動やボランティアで交流している。または、過去、交流したことがある	5 車椅子を押したり、視覚に障害のある人の道案内(誘導)を手伝ったりしたことがある	6 列車やバスなどで席を譲ったり、バスなどの乗降時に手助けしたりしたことがある	7 訪問したり、相談相手や話し相手になったりしたことがある	8 その他
全体		78人	41.0%	16.7%	51.3%	26.9%	32.1%	38.5%	2.6%	11.5%
性別	男性	33人	36.4%	21.2%	45.5%	24.2%	24.2%	45.5%	6.1%	18.2%
	女性	45人	44.4%	13.3%	55.6%	28.9%	37.8%	33.3%	0.0%	6.7%
年齢別	20歳代以下	4人	50.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	10人	40.0%	20.0%	80.0%	30.0%	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%
	40歳代	16人	50.0%	6.3%	37.5%	37.5%	31.3%	31.3%	0.0%	0.0%
	50歳代	20人	45.0%	30.0%	55.0%	20.0%	40.0%	50.0%	5.0%	5.0%
	60歳代	18人	27.8%	11.1%	55.6%	16.7%	44.4%	38.9%	0.0%	33.3%
	70歳以上	10人	40.0%	10.0%	50.0%	30.0%	0.0%	30.0%	0.0%	10.0%
区別	門司区	12人	75.0%	25.0%	33.3%	33.3%	41.7%	41.7%	8.3%	8.3%
	小倉北区	16人	12.5%	12.5%	50.0%	31.3%	18.8%	37.5%	6.3%	25.0%
	小倉南区	16人	25.0%	25.0%	75.0%	18.8%	37.5%	37.5%	0.0%	18.8%
	若松区	4人	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	50.0%	75.0%	0.0%	25.0%
	八幡東区	8人	50.0%	0.0%	62.5%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	17人	58.8%	23.5%	47.1%	23.5%	35.3%	17.6%	0.0%	0.0%
	戸畑区	5人	60.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%

障害のある人に接したり、交流したりした経験の具体的な内容は、「3 仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」(51.3%)が最も高く、次いで「1 身内や親しい人に障害のある人がいる。または、過去、いたことがある」(41.0%)の順となっています。

問4 <問1で「2 ない」と答えた方におたずねします>

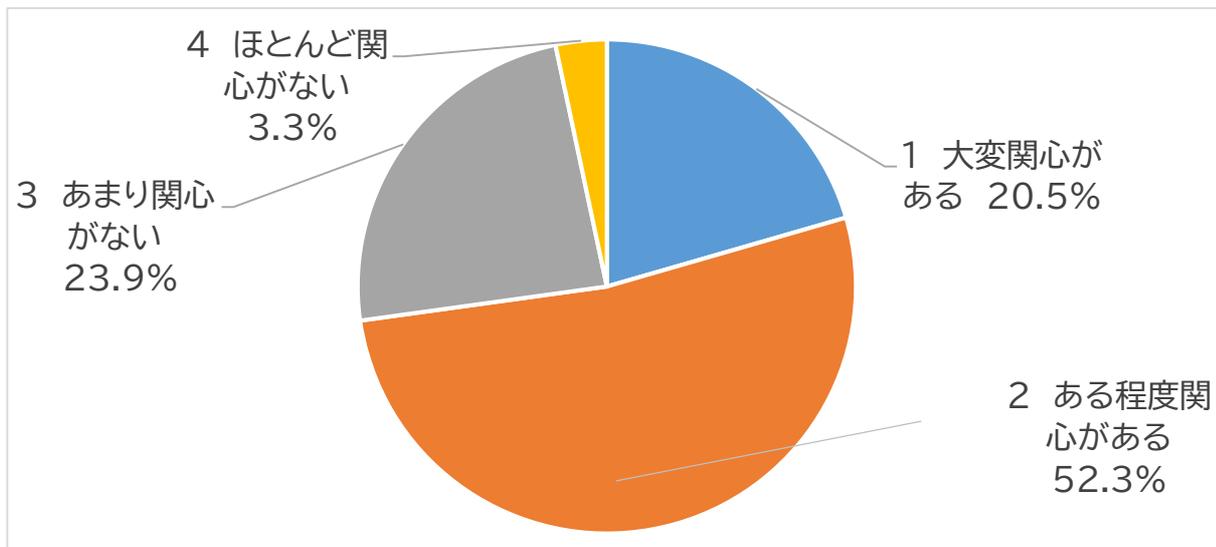
接した経験がない理由は何ですか(○はいくつでも)



		回答者数	1 接する機会やきっかけがなかった	2 どのように接したらよいかわからなかった	3 おせっかいのような気がした	4 気恥ずかしさを感じた	5 関心がなかった	6 その他
全体		10人	90.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
性別	男性	7人	85.7%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	3人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳以下	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	3人	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	4人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	3人	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	1人	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	3人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	2人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

障害のある人に接したり、交流したりしたことがない理由として、多くの方が「1 接する機会やきっかけがなかった」(90.0%)と回答しています。なお、「5 関心がなかった」と回答した方は 0.0%でした。

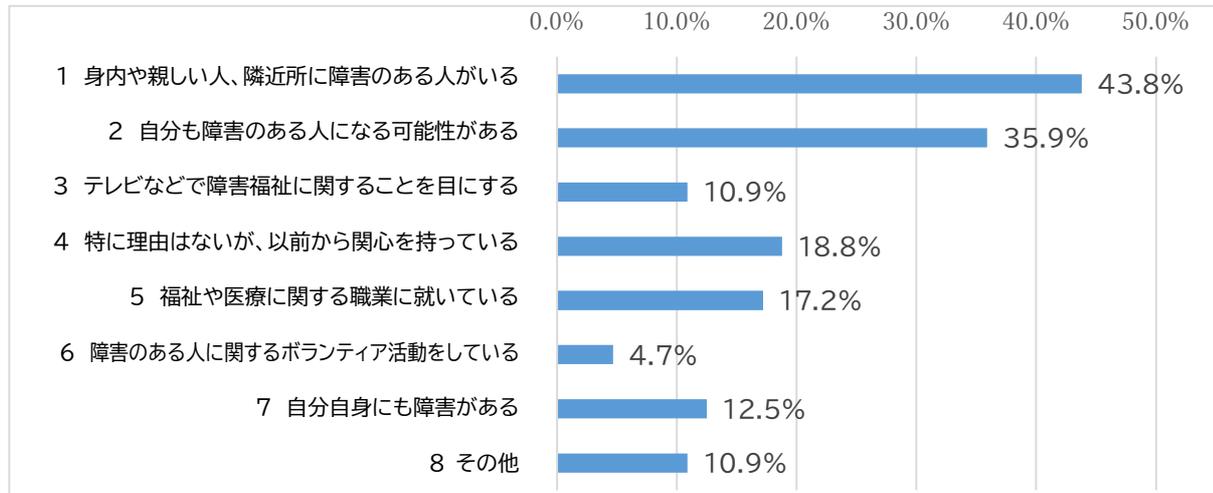
問5 あなたは、障害福祉に関心をお持ちですか(○は1つだけ)



		回答者数	1 大変関心がある	2 ある程度関心がある	3 あまり関心がない	4 ほとんど関心がない
全体		88人	20.5%	52.3%	23.9%	3.3%
性別	男性	40人	15.0%	52.5%	30.0%	2.5%
	女性	48人	25.0%	52.1%	18.8%	4.1%
年齢別	20歳以下	4人	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%
	30歳代	11人	27.3%	54.5%	9.1%	9.1%
	40歳代	19人	26.3%	52.6%	15.8%	5.3%
	50歳代	22人	13.6%	59.1%	27.3%	0.0%
	60歳代	22人	22.7%	50.0%	27.3%	0.0%
	70歳以上	10人	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%
区別	門司区	12人	25.0%	66.7%	0.0%	8.3%
	小倉北区	19人	21.1%	52.6%	21.1%	5.2%
	小倉南区	17人	23.5%	35.3%	41.2%	0.0%
	若松区	4人	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11人	9.1%	63.6%	27.3%	0.0%
	八幡西区	18人	16.7%	55.6%	27.7%	0.0%
	戸畑区	7人	42.9%	28.6%	14.3%	14.2%

「1 大変関心がある」(20.5%)、「2 ある程度関心がある」(52.3%)を合わせた 72.8%が障害福祉に関心を持っているとの回答でした。  
 年代別でみると、「1 大変関心がある」、「2 ある程度関心がある」を合わせた割合は30歳代が81.8%と最も高くなっています。

問6 <問5で「1 大変関心がある」または、「2 ある程度関心がある」と答えた方におたずねします>  
 どのような理由から関心をお持ちですか(○はいくつでも)

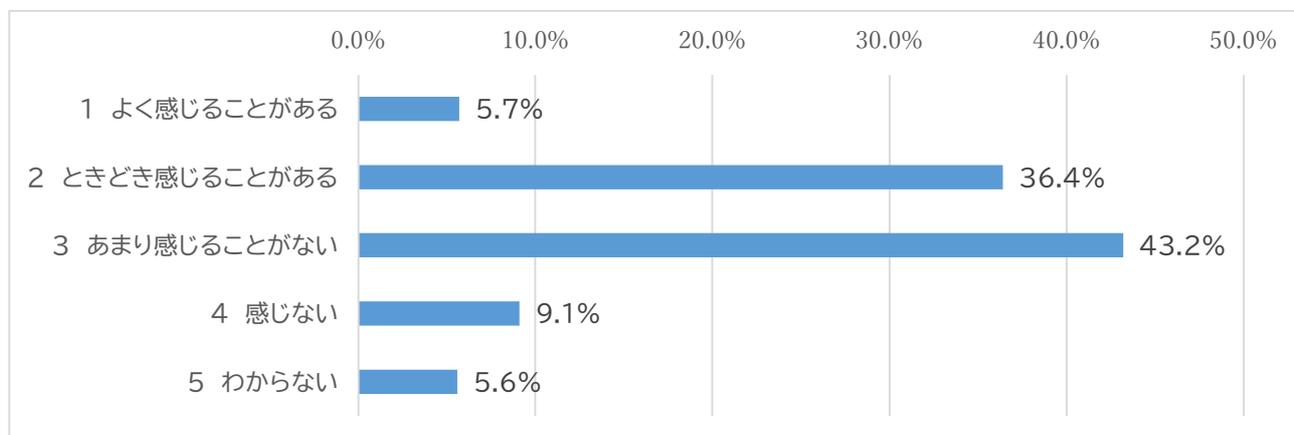


		回答者数	1 身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる	2 自分も障害のある人になる可能性がある	3 テレビなどで障害に関することを目にする	4 特に理由はないが、以前から関心を持っている	5 福祉や医療に関する職業に就いている	6 障害のある人に関するボランティア活動をしている	7 自分自身にも障害がある	8 その他
全体		64人	43.8%	35.9%	10.9%	18.8%	17.2%	4.7%	12.5%	10.9%
性別	男性	27人	40.7%	33.3%	7.4%	18.5%	7.4%	11.1%	11.1%	25.9%
	女性	37人	45.9%	37.8%	13.5%	18.9%	24.3%	0.0%	13.5%	0.0%
年齢別	20歳代以下	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	9人	33.3%	44.4%	0.0%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	11.1%
	40歳代	15人	40.0%	46.7%	13.3%	13.3%	20.0%	0.0%	13.3%	0.0%
	50歳代	16人	56.3%	18.8%	12.5%	25.0%	12.5%	6.3%	18.8%	12.5%
	60歳代	16人	43.8%	43.8%	18.8%	18.8%	12.5%	12.5%	6.3%	18.8%
	70歳以上	7人	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%
区別	門司区	11人	72.7%	54.5%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	14人	28.6%	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	21.4%
	小倉南区	10人	40.0%	30.0%	10.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%
	若松区	3人	33.3%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%
	八幡東区	8人	37.5%	50.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%
	八幡西区	13人	46.2%	46.2%	23.1%	15.4%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	5人	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

どのような理由から障害福祉に関心を持ったかについては、「1 身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる」(43.8%)が最も高く、次いで「2 自分も障害のある人になる可能性がある」(35.9%)の順となっています。

問7 あなたは、日常生活や地域で障害のある人に対する差別・偏見などを感じることはありませんか  
(〇は各々1つだけ)

(1)身体障害のある人に対して



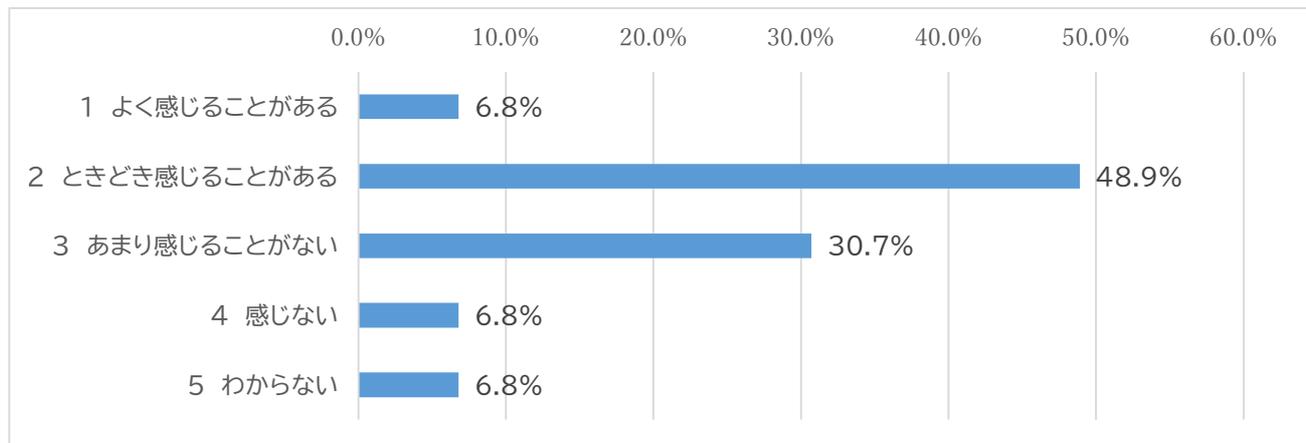
		回答者数	1 よく感じることもある	2 ときどき感じることもある	3 あまり感じることはない	4 感じない	5 わからない
全 体		88人	5.7%	36.4%	43.2%	9.1%	5.6%
性 別	男 性	40人	5.0%	22.5%	57.5%	12.5%	2.5%
	女 性	48人	6.3%	47.9%	31.3%	6.3%	8.2%
年 齢 別	20歳代以下	4人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	0.0%	27.3%	45.5%	18.2%	9.0%
	40歳代	19人	5.3%	42.1%	36.8%	5.3%	10.5%
	50歳代	22人	9.1%	36.4%	36.4%	9.1%	9.0%
	60歳代	22人	4.5%	40.9%	45.5%	9.1%	0.0%
	70歳以上	10人	0.0%	30.0%	60.0%	10.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12人	8.3%	41.7%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19人	5.3%	47.4%	31.6%	15.7%	0.0%
	小倉南区	17人	5.9%	23.5%	58.8%	11.8%	0.0%
	若 松 区	4人	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	27.3%	72.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18人	5.6%	33.3%	44.4%	5.6%	11.1%
	戸 畑 区	7人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

日常生活や地域で(1)身体障害のある人に対する差別・偏見などを「1 よく感じることもある」(5.7%)と「2 ときどき感じることもある」(36.4%)を合わせて、42.1%となっています。

「1 よく感じることもある」と「2 ときどき感じることもある」の合計の割合について、年代別にみると、20歳代以下が「1 よく感じることもある」が 25.0%、「2 ときどき感じることもある」が 25.0%、合計が 50.0%と最も高くなっています。

問7

(2)知的障害のある人に対して



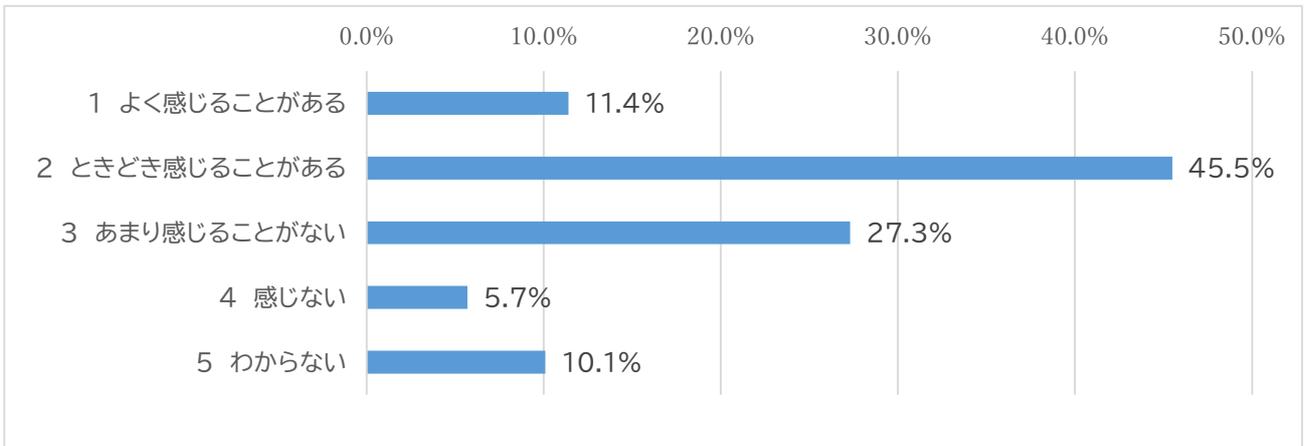
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 とき どき感じる ことがある	3 あま り感じる ことがな い	4 感じ ない	5 わか らない
全 体		88人	6.8%	48.9%	30.7%	6.8%	6.8%
性 別	男 性	40人	7.5%	37.5%	40.0%	7.5%	7.5%
	女 性	48人	6.3%	58.3%	22.9%	6.3%	6.2%
年 齢 別	20歳以下	4人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	18.2%	45.5%	9.1%	18.2%	9.0%
	40歳代	19人	5.3%	47.4%	31.6%	5.3%	10.4%
	50歳代	22人	4.5%	50.0%	31.8%	4.5%	9.2%
	60歳代	22人	4.5%	54.5%	31.8%	4.5%	4.7%
	70歳以上	10人	0.0%	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12人	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19人	5.3%	57.9%	31.6%	5.2%	0.0%
	小倉南区	17人	0.0%	58.8%	29.4%	11.8%	0.0%
	若 松 区	4人	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18人	11.1%	33.3%	33.3%	5.6%	16.7%
	戸 畑 区	7人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

(2)知的障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(6.8%)と「2 ときどき感じることもある」(48.9%)を合わせて、55.7%となっています。

「1 よく感じることもある」と「2 ときどき感じることもある」の合計の割合について、年代別にみると、30歳代が「1 よく感じることもある」が18.2%、「2 ときどき感じることもある」が45.5%、合計が63.7%と最も高くなっています。

問7

(3)精神障害のある人に対して



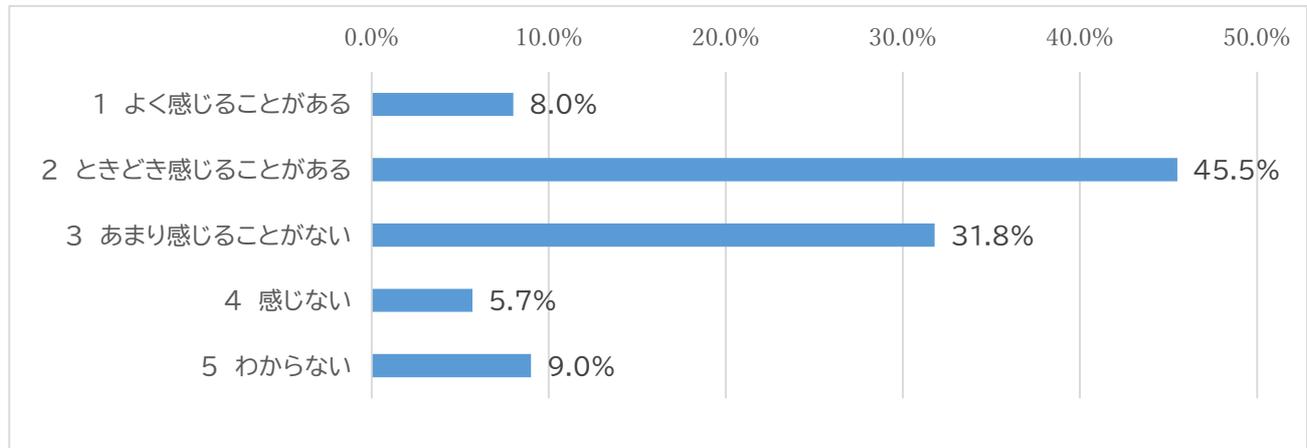
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 とき どき感じ ることが ある	3 あま り感じる ことがな い	4 感じ ない	5 わか らない
全体		88人	11.4%	45.5%	27.3%	5.7%	10.1%
性別	男性	40人	12.5%	37.5%	37.5%	2.5%	10.0%
	女性	48人	10.4%	52.1%	18.8%	8.3%	10.4%
年齢別	20歳以下	4人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	36.4%	36.4%	0.0%	18.2%	9.0%
	40歳代	19人	10.5%	47.4%	21.1%	5.3%	15.7%
	50歳代	22人	4.5%	50.0%	27.3%	4.5%	13.7%
	60歳代	22人	4.5%	50.0%	36.4%	4.5%	4.6%
	70歳以上	10人	10.0%	40.0%	40.0%	0.0%	10.0%
区別	門司区	12人	25.0%	41.7%	25.0%	0.0%	8.3%
	小倉北区	19人	10.5%	57.9%	26.3%	0.0%	5.3%
	小倉南区	17人	5.9%	58.8%	17.6%	11.8%	5.9%
	若松区	4人	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11人	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18人	16.7%	22.2%	38.9%	5.6%	16.6%
	戸畑区	7人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

(3)精神障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(11.4%)と「2 ときどき感じることもある」(45.5%)を合わせて、56.9%となっています。

「1 よく感じることもある」と「2 ときどき感じることもある」の合計の割合について、年代別にみると、30歳代が「1 よく感じることもある」が 36.4%、「2 ときどき感じることもある」が 36.4%、合計が 72.8%と最も高くなっています。

問7

(4)発達障害のある人に対して



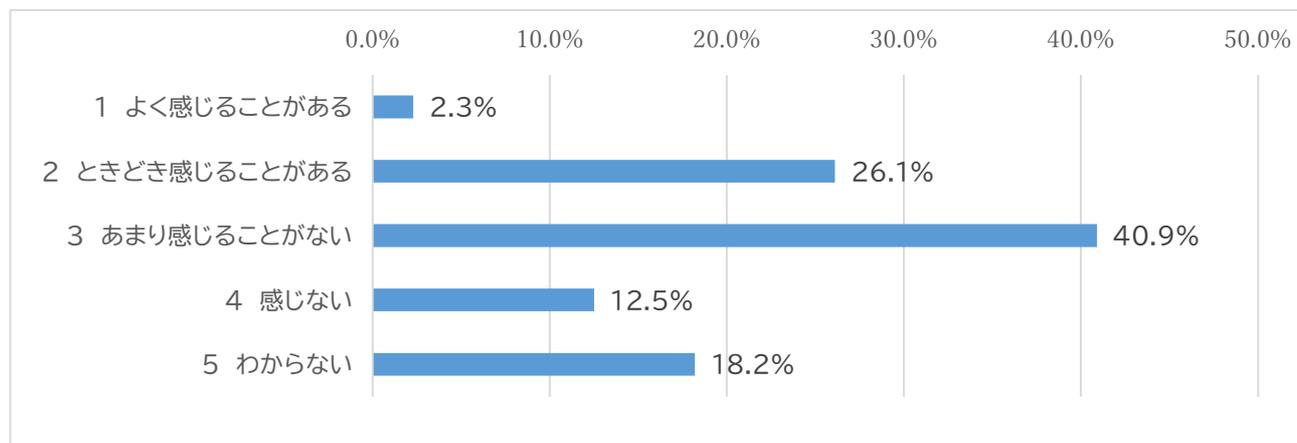
		回答者数	1 よく感じることもある	2 ときどき感じることもある	3 あまり感じることはない	4 感じない	5 わからない
全体		88人	8.0%	45.5%	31.8%	5.7%	9.0%
性別	男性	40人	12.5%	30.0%	42.5%	5.0%	10.0%
	女性	48人	4.2%	58.3%	22.9%	6.3%	8.3%
年齢別	20歳代以下	4人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	18.2%	45.5%	18.2%	9.1%	9.0%
	40歳代	19人	5.3%	47.4%	31.6%	5.3%	10.4%
	50歳代	22人	4.5%	54.5%	27.3%	4.5%	9.2%
	60歳代	22人	9.1%	40.9%	36.4%	4.5%	9.1%
	70歳以上	10人	0.0%	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%
区別	門司区	12人	16.7%	58.3%	16.7%	0.0%	8.3%
	小倉北区	19人	10.5%	52.6%	36.9%	0.0%	0.0%
	小倉南区	17人	0.0%	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%
	若松区	4人	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	八幡東区	11人	0.0%	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18人	11.1%	33.3%	33.3%	5.6%	16.7%
	戸畑区	7人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

(4)発達障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(8.0%)と「2 ときどき感じることもある」(45.5%)を合わせて、53.5%となっています。

「1 よく感じることもある」と「2 ときどき感じることもある」の合計の割合について、年代別にみると、30歳代が「1 よく感じることもある」が18.2%、「2 ときどき感じることもある」が45.5%、合計が63.7%と最も高くなっています。

## 問7

## (5)難病患者の人に対して



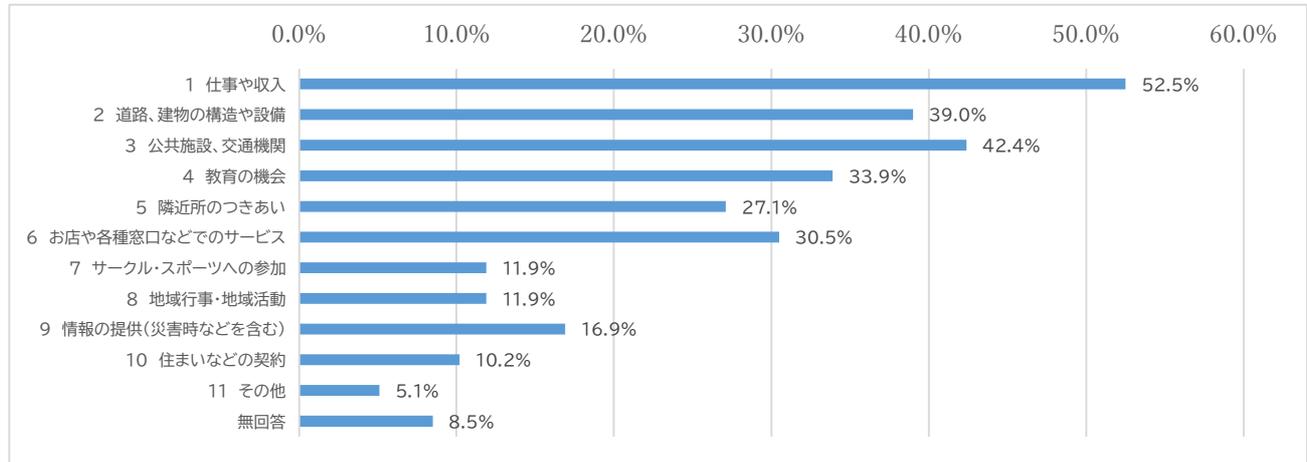
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 とき どき感じ ることが ある	3 あま り感じる ことがな い	4 感じ ない	5 わか らない
全 体		88人	2.3%	26.1%	40.9%	12.5%	18.2%
性 別	男 性	40人	2.5%	20.0%	50.0%	12.5%	15.0%
	女 性	48人	2.1%	31.3%	33.3%	12.5%	20.8%
年 齢 別	20歳以下	4人	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	0.0%	18.2%	45.5%	18.2%	18.1%
	40歳代	19人	5.3%	31.6%	26.3%	21.1%	15.7%
	50歳代	22人	0.0%	22.7%	45.5%	4.5%	27.3%
	60歳代	22人	4.5%	31.8%	36.4%	9.1%	18.2%
	70歳以上	10人	0.0%	20.0%	50.0%	20.0%	10.0%
区 別	門 司 区	12人	8.3%	50.0%	25.0%	8.3%	8.4%
	小倉北区	19人	0.0%	26.3%	52.6%	10.5%	10.6%
	小倉南区	17人	0.0%	23.5%	35.3%	23.5%	17.7%
	若 松 区	4人	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%
	八幡東区	11人	0.0%	27.3%	63.6%	0.0%	9.1%
	八幡西区	18人	0.0%	16.7%	50.0%	11.1%	22.2%
	戸 畑 区	7人	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	57.1%

(5)難病患者の人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(2.3%)と「2 ときどき感じることもある」(26.1%)を合わせて、28.4%となっています。

「1 よく感じることもある」と「2 ときどき感じることもある」の合計の割合について、年代別にみると、40歳代が「1 よく感じることもある」が 5.3%、「2 ときどき感じることもある」が 31.6%、合計が 36.9%と最も高くなっています。

問8 <問7で一つでも「1 よく感じることもある」又は「2 とときどき感じることもある」と答えた方  
におたずねします>

どのようなところに最も強く障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか(○  
はいくつでも)



※設問の回答には補足説明あり 1 仕事や収入(職場環境や就労条件、賃金など)

※設問の回答には補足説明あり 9 情報の提供(災害時などを含む)

※設問の回答には補足説明あり 10 住まいなどの契約(アパートやマンションなどの賃貸契約など)

		回答者数	1 仕事や収入	2 道路、建物の構造や設備	3 公共施設、交通機関	4 教育の機会	5 隣近所のつきあい	6 お店や各種窓口などでのサービス	7 サークル・スポーツへの参加	8 地域行事・地域活動	9 情報の提供	10 住まいなどの契約	11 その他	無回答
全体		59人	52.5%	39.0%	42.4%	33.9%	27.1%	30.5%	11.9%	11.9%	16.9%	10.2%	5.1%	8.5%
性別	男性	22人	59.1%	18.2%	59.1%	31.8%	36.4%	40.9%	13.6%	22.7%	18.2%	9.1%	4.5%	13.6%
	女性	37人	48.6%	51.4%	32.4%	35.1%	21.6%	24.3%	10.8%	5.4%	16.2%	10.8%	5.4%	5.4%
年齢別	20歳以下	2人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	9人	55.6%	33.3%	44.4%	44.4%	33.3%	22.2%	11.1%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%	22.2%
	40歳代	14人	50.0%	28.6%	14.3%	21.4%	21.4%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%
	50歳代	15人	46.7%	53.3%	40.0%	33.3%	26.7%	33.3%	13.3%	20.0%	20.0%	13.3%	13.3%	6.7%
	60歳代	14人	71.4%	42.9%	64.3%	50.0%	35.7%	50.0%	14.3%	14.3%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%
	70歳以上	5人	20.0%	40.0%	80.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	9人	77.8%	33.3%	55.6%	44.4%	33.3%	55.6%	0.0%	11.1%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%
	小倉北区	15人	33.3%	40.0%	53.3%	33.3%	26.7%	53.3%	26.7%	26.7%	20.0%	0.0%	0.0%	13.3%
	小倉南区	12人	58.3%	41.7%	33.3%	33.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%
	若松区	3人	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6人	50.0%	50.0%	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	11人	63.6%	27.3%	18.2%	54.5%	18.2%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%	27.3%	0.0%	18.2%
	戸畑区	3人	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

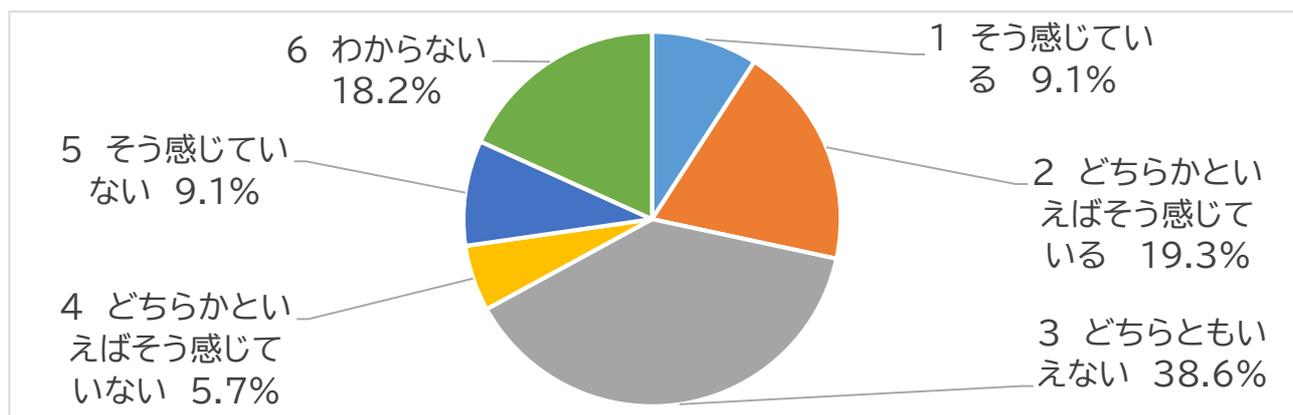
障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じている具体的な内容については、「1 仕事や収入」(52.5%)が最も高く、次いで「3 公共施設、交通機関」(42.4%)の順となっています。

2. 北九州市の障害福祉施策の取組状況について

【障害のある人の雇用・就業機会の確保と拡大】

問9 北九州市では、働く意欲のある障害のある人の雇用を促進するため、障害者しごとサポートセンターを設置し、障害のある人への就労支援に取り組んでいます。

また、企業での障害のある人の雇用を促進するための取組、一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供し、必要な支援を行う就労継続支援事業所等の充実などにも取り組んでいます。そこで、おたずねします。あなたは、北九州市では、障害のある人の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じますか。(〇は1つだけ)



		回答者数	1 そう感じている	2 どちらかといえばそう感じている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう感じていない	5 そう感じていない	6 わからない
全 体		88人	9.1%	19.3%	38.6%	5.7%	9.1%	18.2%
性 別	男 性	40人	7.5%	15.0%	45.0%	5.0%	10.0%	17.5%
	女 性	48人	10.4%	22.9%	33.3%	6.3%	8.3%	18.8%
年 齢 別	20歳代以下	4人	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	9.1%	0.0%	72.7%	0.0%	9.1%	9.1%
	40歳代	19人	5.3%	26.3%	26.3%	5.3%	21.1%	15.7%
	50歳代	22人	9.1%	18.2%	36.4%	4.5%	9.1%	22.7%
	60歳代	22人	4.5%	27.3%	40.9%	9.1%	4.5%	13.7%
	70歳以上	10人	10.0%	10.0%	30.0%	10.0%	0.0%	40.0%
区 別	門 司 区	12人	8.3%	25.0%	25.0%	8.3%	25.0%	8.4%
	小倉北区	19人	10.5%	10.5%	42.1%	10.5%	5.3%	21.1%
	小倉南区	17人	5.9%	23.5%	35.3%	0.0%	5.9%	29.4%
	若 松 区	4人	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	八幡東区	11人	9.1%	36.4%	45.5%	9.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18人	5.6%	11.1%	50.0%	5.6%	11.1%	16.6%
	戸 畑 区	7人	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	14.2%

障害のある人の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じるかについて、「1 そう感じている」(9.1%)、「2 どちらかといえばそう感じている」(19.3%)を合わせて 28.4%となり、「4 どちらかといえばそう感じていない」(5.7%)、「5 そう感じていない」(9.1%)を合わせた 14.8%を上回っています。

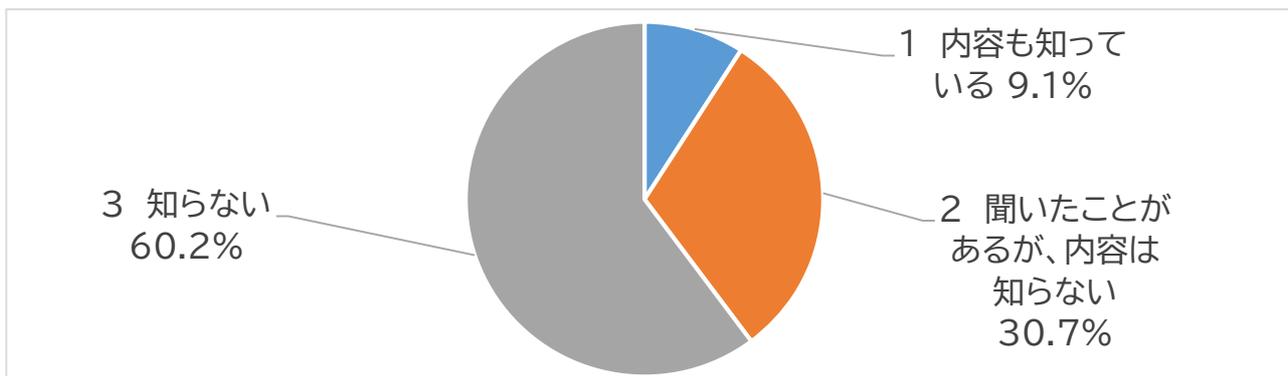
【障害者差別解消法や北九州市障害者差別解消条例の周知】

問10 平成28年4月1日、障害を理由とする差別を禁止して、障害のない人との平等な機会や待遇を保障するために「障害者差別解消法」が施行されました。

この法律は、差別を解消するための措置として、国・地方公共団体等及び民間事業者に対して「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が義務付けられています。

また、本市では、「障害者差別解消法」を補完し、市、事業者および市民が協力して、「障害を理由とする差別」の解消に向け主体的に取り組み、共生社会の実現を目指すための「北九州市障害者差別解消条例」を制定しています。

あなたは、「障害者差別解消法」や「北九州市障害者差別解消条例」をご存知ですか(○は1つだけ)



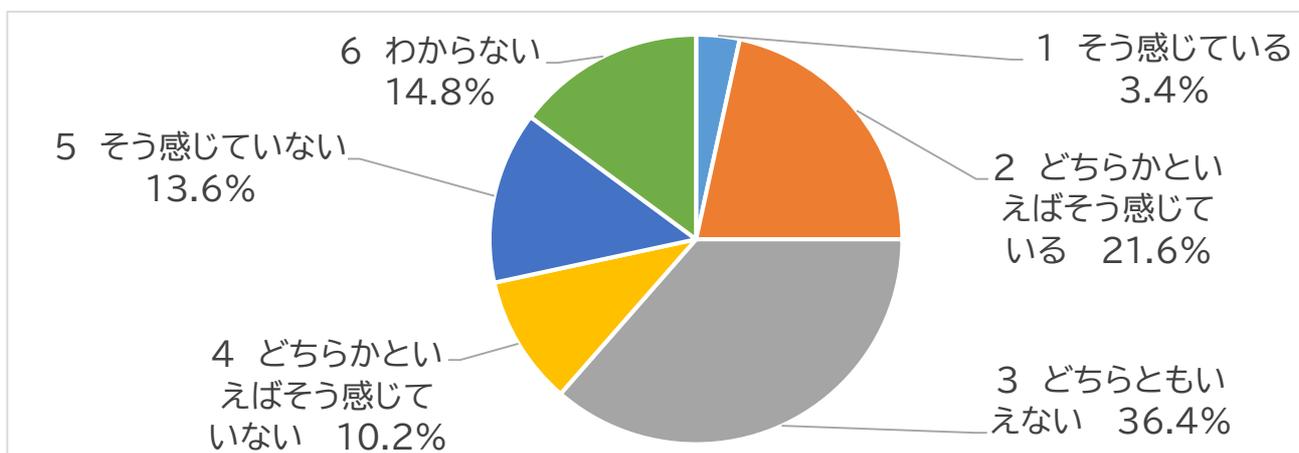
		回答者数	1 内容も知っている	2 聞いたことがあるが、内容は知らない	3 知らない
全体		88人	9.1%	30.7%	60.2%
性別	男性	40人	12.5%	32.5%	55.0%
	女性	48人	6.3%	29.2%	64.5%
年齢別	20歳以下	4人	25.0%	0.0%	75.0%
	30歳代	11人	18.2%	36.4%	45.4%
	40歳代	19人	0.0%	26.3%	73.7%
	50歳代	22人	9.1%	27.3%	63.6%
	60歳代	22人	13.6%	40.9%	45.5%
	70歳以上	10人	0.0%	30.0%	70.0%
区別	門司区	12人	8.3%	50.0%	41.7%
	小倉北区	19人	10.5%	26.3%	63.2%
	小倉南区	17人	5.9%	23.5%	70.6%
	若松区	4人	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	11人	9.1%	27.3%	63.6%
	八幡西区	18人	16.7%	38.9%	44.4%
	戸畑区	7人	0.0%	28.6%	71.4%

「障害者差別解消法」や「北九州市障害者差別解消条例」について知っているかについては、「1 内容も知っている」(9.1%)、「2 聞いたことがあるが、内容は知らない」(30.7%)を合わせて39.8%に留まっており、「3 知らない」(60.2%)の方が、約20ポイント上回っています。

【障害のある人の人権の尊重】

問11 北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解を深め、障害の有無にかかわらず、お互いの人権を尊重できる社会を実現するため、行政だけでなく地域・学校・企業など様々な機会をとらえた市民啓発を推進しています。そこで、おたずねします。

北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透し、不当な差別的取扱いの無い、合理的な配慮が提供される社会になったと感じますか(○は1つだけ)

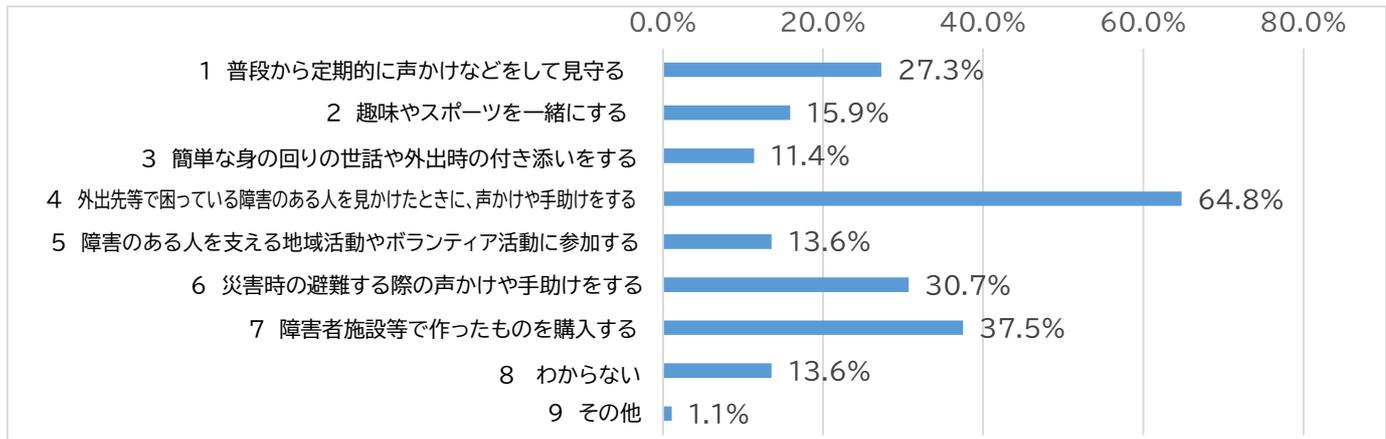


		回答者数	1 そう感じている	2 どちらかといえばそう感じている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう感じている	5 そう感じている	6 わからない
全 体		88人	3.4%	21.6%	36.4%	10.2%	13.6%	14.8%
性 別	男 性	40人	2.5%	25.0%	37.5%	12.5%	17.5%	5.0%
	女 性	48人	4.2%	18.8%	35.4%	8.3%	10.4%	22.9%
年 齢 別	20歳代以下	4人	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	9.1%	9.1%	27.3%	27.3%	9.1%	18.1%
	40歳代	19人	5.3%	10.5%	36.8%	10.5%	21.1%	15.8%
	50歳代	22人	0.0%	22.7%	45.5%	4.5%	9.1%	18.2%
	60歳代	22人	4.5%	27.3%	31.8%	0.0%	22.7%	13.7%
	70歳以上	10人	0.0%	20.0%	40.0%	30.0%	0.0%	10.0%
区 別	門 司 区	12人	8.3%	25.0%	16.7%	8.3%	25.0%	16.7%
	小倉北区	19人	0.0%	21.1%	52.6%	15.8%	0.0%	10.5%
	小倉南区	17人	5.9%	23.5%	35.3%	5.9%	11.8%	17.6%
	若 松 区	4人	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%
	八幡東区	11人	0.0%	54.5%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%
	八幡西区	18人	0.0%	5.6%	55.6%	5.6%	16.7%	16.5%
	戸 畑 区	7人	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	14.2%

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じるかについては、「1 そう感じている」は 3.4%でしたが、「2 どちらかといえばそう感じている」(21.6%)との肯定的な回答の合計 25.0%と、「4 どちらかといえばそう感じている」(10.2%)、「5 そう感じている」(13.6%)との否定的な回答の合計 23.8%を比べると、肯定的な回答が 1.2 ポイント上回っています。

3. 共生社会を実現するための取組について

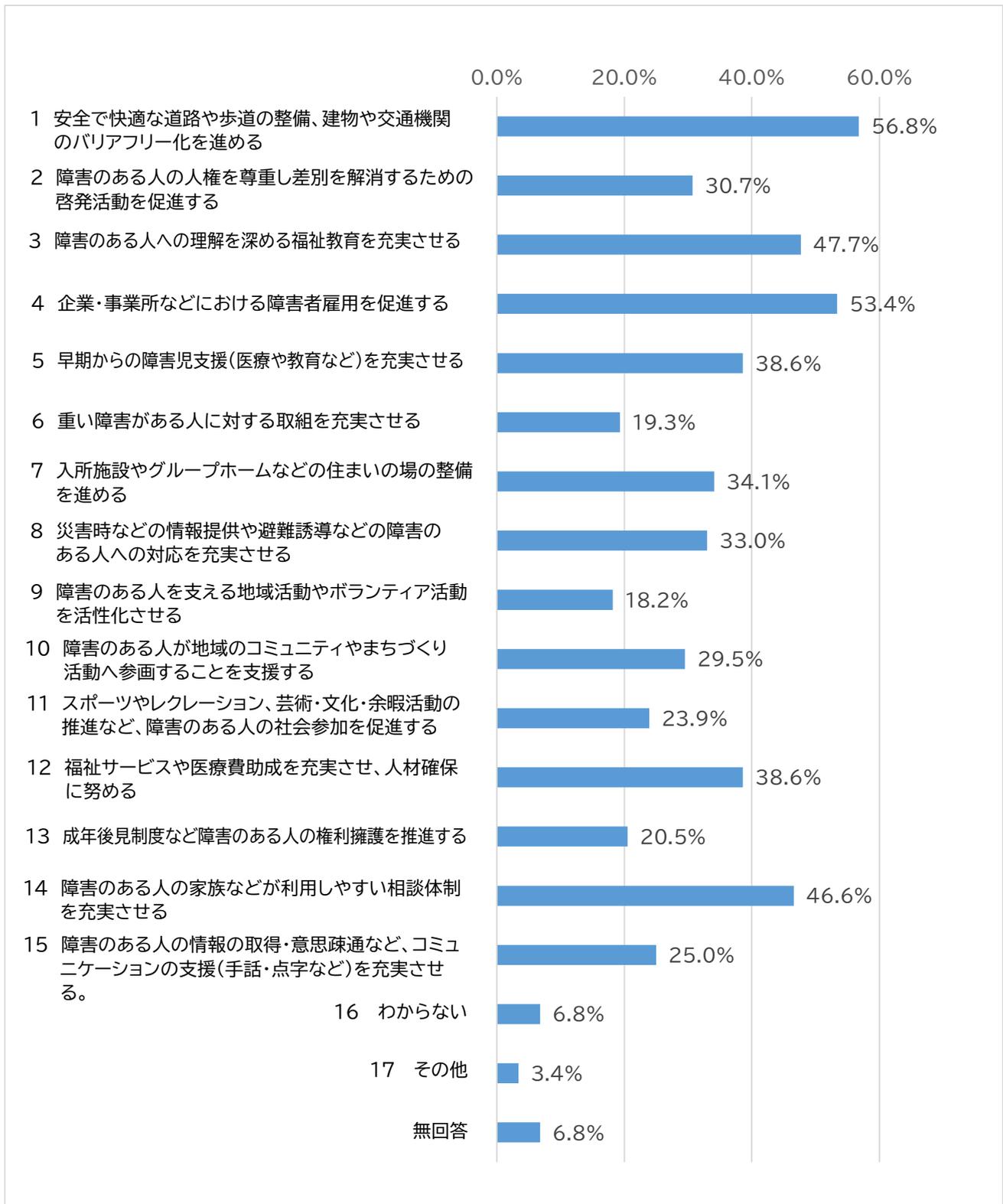
問12 北九州市では、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指しています。今後、地域で生活する障害のある人とかかわっていく中で、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何ですか。次の中から、あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。



		回答者数	1 普段から定期的に声かけなどをして見守る	2 趣味やスポーツを一緒にする	3 簡単な身の回りの世話や外出時の付き添いをする	4 外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする	5 障害のある人を支える地域活動やボランティア活動に参加する	6 災害時の避難する際の声かけや手助けをする	7 障害者施設等で作ったものを購入する	8 わからない	9 その他
全体		88人	27.3%	15.9%	11.4%	64.8%	13.6%	30.7%	37.5%	13.6%	1.1%
性別	男性	40人	32.5%	17.5%	10.0%	62.5%	20.0%	32.5%	27.5%	10.0%	2.5%
	女性	48人	22.9%	14.6%	12.5%	66.7%	8.3%	29.2%	45.8%	16.7%	0.0%
年齢別	20歳以下	4人	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	18.2%	27.3%	9.1%	72.7%	27.3%	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%
	40歳代	19人	26.3%	15.8%	26.3%	52.6%	10.5%	26.3%	42.1%	21.1%	0.0%
	50歳代	22人	18.2%	18.2%	4.5%	63.6%	18.2%	31.8%	36.4%	18.2%	4.5%
	60歳代	22人	40.9%	18.2%	9.1%	81.8%	13.6%	36.4%	36.4%	9.1%	0.0%
	70歳以上	10人	30.0%	0.0%	10.0%	50.0%	0.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	12人	33.3%	0.0%	8.3%	66.7%	8.3%	33.3%	41.7%	16.7%	8.3%
	小倉北区	19人	26.3%	26.3%	5.3%	63.2%	21.1%	31.6%	47.4%	10.5%	0.0%
	小倉南区	17人	23.5%	17.6%	23.5%	82.4%	17.6%	47.1%	41.2%	5.9%	0.0%
	若松区	4人	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11人	27.3%	0.0%	9.1%	90.9%	9.1%	63.6%	36.4%	9.1%	0.0%
	八幡西区	18人	33.3%	22.2%	16.7%	44.4%	5.6%	5.6%	38.9%	11.1%	0.0%
	戸畑区	7人	14.3%	14.3%	0.0%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%

共生社会を実現するにあたって、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何かについては、「4 外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする」(64.8%)の割合が最も高く、次いで「7 障害者施設等で作ったものを購入する」(37.5%)、「6 災害時の避難する際の声かけや手助けをする」(30.7%)の順となっています。

問13 あなたは、障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後、特に力を入れるべき取組は何だと思えますか。次の中から、あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。

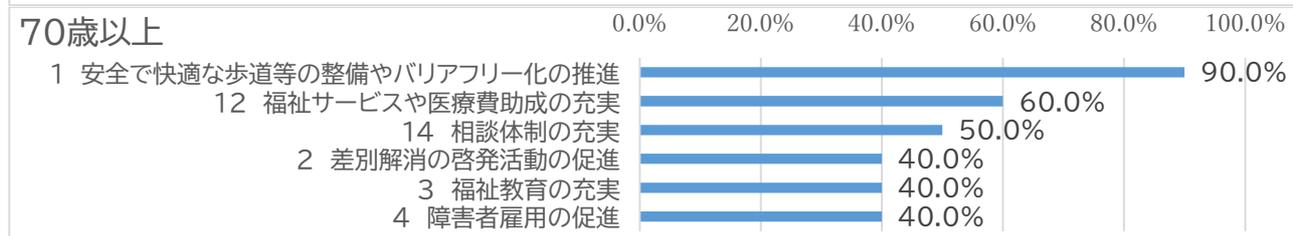
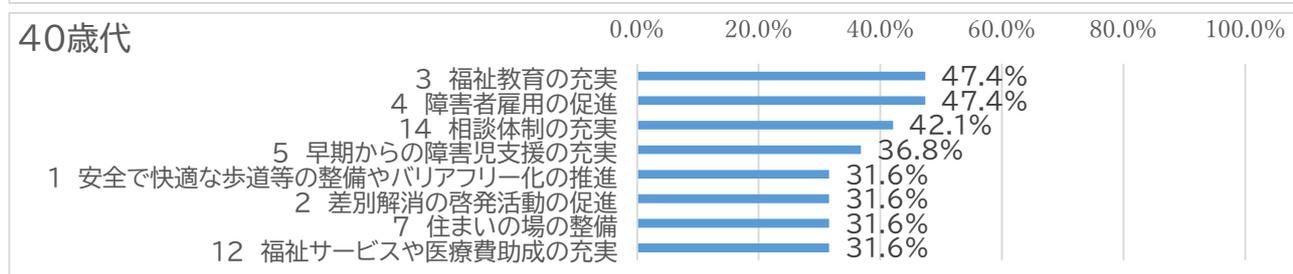
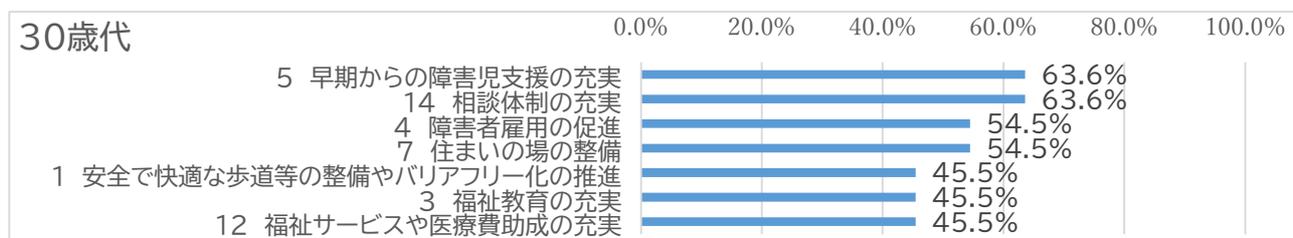
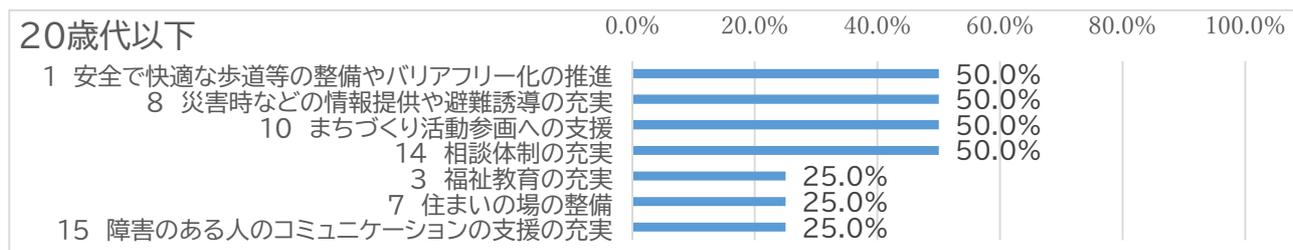


## 第4章 市政モニターアンケート

		回答者数	1 安全で快適な歩道等の整備やバリアフリー化の推進	2 差別解消の啓発活動の促進	3 福祉教育の充実	4 障害者雇用の促進	5 早期からの障害児支援の充実	6 重い障害がある人に対する取組の充実	7 住まいの場の整備	8 災害時などの情報提供や避難誘導の充実	9 地域活動やボランティア活動の活性化
全体		88人	56.8%	30.7%	47.7%	53.4%	38.6%	19.3%	34.1%	33.0%	18.2%
性別	男性	40人	60.0%	30.0%	45.0%	50.0%	32.5%	22.5%	27.5%	37.5%	20.0%
	女性	48人	54.2%	31.3%	50.0%	56.3%	43.8%	16.7%	39.6%	29.2%	16.7%
年齢別	20歳以下	4人	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%
	30歳代	11人	45.5%	27.3%	45.5%	54.5%	63.6%	18.2%	54.5%	36.4%	27.3%
	40歳代	19人	31.6%	31.6%	47.4%	47.4%	36.8%	15.8%	31.6%	21.1%	15.8%
	50歳代	22人	63.6%	18.2%	45.5%	54.5%	36.4%	13.6%	31.8%	31.8%	18.2%
	60歳代	22人	63.6%	45.5%	59.1%	72.7%	40.9%	27.3%	27.3%	40.9%	22.7%
	70歳以上	10人	90.0%	40.0%	40.0%	40.0%	30.0%	30.0%	20.0%	30.0%	10.0%
区別	門司区	12人	83.3%	33.3%	58.3%	75.0%	75.0%	58.3%	50.0%	50.0%	25.0%
	小倉北区	19人	63.2%	26.3%	42.1%	57.9%	31.6%	21.1%	31.6%	26.3%	26.3%
	小倉南区	17人	47.1%	29.4%	41.2%	52.9%	29.4%	5.9%	35.3%	35.3%	11.8%
	若松区	4人	25.0%	25.0%	75.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%
	八幡東区	11人	72.7%	45.5%	54.5%	54.5%	36.4%	18.2%	45.5%	63.6%	18.2%
	八幡西区	18人	44.4%	22.2%	38.9%	38.9%	38.9%	0.0%	16.7%	11.1%	5.6%
	戸畑区	7人	42.9%	42.9%	57.1%	57.1%	28.6%	28.6%	42.9%	28.6%	28.6%

		回答者数	10 まちづくり活動参画への支援	11 スポーツなど社会参加を促進	12 福祉サービスや医療費助成の充実	13 障害のある人の権利擁護の推進	14 相談体制の充実	15 障害のある人のコミュニケーションの支援の充実	16 わからない	17 その他	無回答
全体		88人	29.5%	23.9%	38.6%	20.5%	46.6%	25.0%	6.8%	3.4%	6.8%
性別	男性	40人	30.0%	27.5%	37.5%	17.5%	37.5%	15.0%	2.5%	5.0%	7.5%
	女性	48人	29.2%	20.8%	39.6%	22.9%	54.2%	33.3%	10.4%	2.1%	6.3%
年齢別	20歳以下	4人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	36.4%	36.4%	45.5%	36.4%	63.6%	27.3%	9.1%	9.1%	18.2%
	40歳代	19人	21.1%	15.8%	31.6%	21.1%	42.1%	26.3%	15.8%	0.0%	15.8%
	50歳代	22人	31.8%	22.7%	40.9%	18.2%	54.5%	27.3%	4.5%	9.1%	4.5%
	60歳代	22人	27.3%	31.8%	36.4%	18.2%	31.8%	27.3%	4.5%	0.0%	0.0%
	70歳以上	10人	30.0%	20.0%	60.0%	20.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	12人	50.0%	33.3%	58.3%	25.0%	66.7%	25.0%	8.3%	16.7%	0.0%
	小倉北区	19人	21.1%	26.3%	42.1%	15.8%	52.6%	15.8%	0.0%	0.0%	10.5%
	小倉南区	17人	35.3%	11.8%	35.3%	23.5%	29.4%	29.4%	5.9%	5.9%	5.9%
	若松区	4人	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11人	18.2%	36.4%	36.4%	27.3%	54.5%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18人	22.2%	16.7%	27.8%	11.1%	44.4%	22.2%	5.6%	0.0%	16.7%
	戸畑区	7人	42.9%	28.6%	42.9%	28.6%	42.9%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%

年齢別の上位の回答



北九州市が特に力を入れるべき取組は何かについて、「1 安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」(56.8%)の割合が最も高く、次いで「4 企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する」(53.4%)、「3 障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」(47.7%)の順となっています。

問14 北九州市の障害福祉施策について、その他ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

24 件の意見をいただきました。主なものは次のとおりです。(原文のまま引用)

〔行政の取組に関する事〕

- 北九州市の障害福祉施策は、常に受け身だと感じている。
- 障害者の方が健常者と同様ということまでは言いませんけどもやはり対策が遅れていると思います。予算的なこともあるんでしょうけども周囲の人たちの啓発、人をいたわる思いやるそういうような啓発教育が必要だと思います。
- しょうがい者のご家族へのサポート体制を整えていただきたい。金銭面以外でも気軽に預ける場や交代で見えてくれる方にすぐに頼める体制など

〔就労に関する事〕

- 障害者が無理なく働ける場をもっと提供することと、雇用する企業やNPO法人に対しては、資金援助を手厚くするなどの優遇措置をより充実させる必要があると思います。

〔共生社会を実現するための取組に関する事〕

- 障害者の方も、してもらえることが当たり前にならないように、健常者と障害者が共生できる環境が必要だと思います。また、障害者の方からヘルプサインが健常者に分かるような方法があると健常者の方も、助ける場合かどうか迷うこともあると思います。
- 障害者という言葉が普通に目にするようになり、世の中に当たり前存在しているようになってきていると感じます。
- 手話や点字など小学校のレクの一環として広めていただけたらよりお互いの理解が深まるのではと思います。
- 比較的目立つバリアフリーと公共交通について。主要な駅の周辺などではエレベーターや誘導ブロックの整備が進んでおり、全体に改善ができていますが、その他の場所では駅からバス停や商業施設までの経路に段差や狭い歩道が多い。車椅子での安全な移動はかなり困難であろう。歩道幅や段差解消が必要である。またバス車輛のノンステップ化率は高いものの、乗降時のサポートは不足している。完全に運転士だけに任されている状況である。乗降補助員の配置は難しいであろうか。
- 見ていて「障害者は本当に大変だなあ」と感じたのは、全盲の人が一人でバスを降りる時だった。乗る時は運転手が入口マイクで声掛けしてくれて判り易そうだったが、降りる時は降車用ステップから地面までの高さが判り難く、見ていてハラハラした。バス降車部下面にセンサーを設置し、ステップから降り先地面までの高差を自動検出し「降り先地面まで高差〇〇cm」的な音声ガイドが流れれば、全盲者にとって非常に助かると思う。
- 社会全体でとりくみ、見守りが必要だと感じます。その方にしかわからない状態や状況があると思うので、手を差し伸べるだけでなく、尊重しながらお互いに気持ちよく生活できるような、専門家の支援や相談をしやすい社会であることが望ましいと思う。

## IV 全体考察

本市では、令和5年度に障害者基本法に基づく障害福祉分野の基本計画として、「北九州市障害者支援計画(令和6年度～令和11年度)」を策定しました。これは、「障害者基本法(第11条)」に規定された本市の障害者施策に関する基本的な計画である「市町村障害者計画」と、「障害者総合支援法(第88条)」に規定された、障害福祉サービス等の見込み量やその確保のための方策などを定めた「市町村障害福祉計画(第7期)」、「児童福祉法(第33条)」に規定された「市町村障害児福祉計画(第3期)」を包含した計画です。

今回、現行の「北九州市障害福祉計画(第7期)」、「北九州市障害児福祉計画(第3期)」が令和8年度で計画期間が終了することから、令和9年度を初年度とする「(仮称)北九州市障害者支援計画改定版」を、令和8年度中に策定する予定です。

本アンケートは障害福祉施策に関する市民の意見やご要望を伺い、その結果を次期計画の基礎資料とするとともに、今後の本市の障害福祉施策の推進の参考とするため実施したものです。

### 【障害のある方への理解や関心について】

障害のある人に接したり、交流したりした経験がある人は、全体の 88.6%で、そのうち身体障害がある人に接したり、交流した割合が 82.1%と最も高くなっています。具体的な内容としては、令和4年度に実施した前回アンケートで最も答えが多かった「身内や親しい人に障害のある人がいる」(41.0%)に代わり、「仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」(51.3%)の回答が最も多くなりました。

一方で、障害のある人に接したり、交流したりした経験がない人の多くが、その理由として、「接する機会やきっかけがなかった」(90.0%)と回答しています。

また、障害福祉への関心度は、「大変関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると 72.8%となり、その理由として、前回アンケートで最も答えが多かった「自分も障害のある人になる可能性がある」(35.9%)に代わり、「身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる」(43.8%)の回答が多くなっており、障害のある方に接したり目にしたりする機会が増え、身近なテーマになっているとうかがえます。

日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じることはある人は、「よく感じる」と「ときどき感じる」と「感じる」と「感じる」を合わせた場合、「身体障害のある人」では 42.1%、「知的障害のある人」では 55.7%、「精神障害のある人」では 56.9%、「発達障害のある人」では 53.5%、「難病患者の人」では 28.4%となっています。障害種別によって、比較的ばらつきがあることが分かりました。

具体的に、どのようなところに最も強く障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるか尋ねたところ、「仕事や収入(職場環境や就労条件、賃金など)」(52.5%)の回答が最も多く、次いで「公共施設、交通機関」(42.4%)、「道路、建物の構造や設備」(39.0%)の順となっています。

### 【北九州市の障害福祉施策の取組状況について】

北九州市がこれまで取り組んできた障害福祉施策の中から3つの施策をあげて、施策の取組に対する評価等についてたずねました。

障害者の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと「感じている」人の割合(「どちらかといえばそう感じている」を含む。)は 28.4%、「感じていない」人の割合(「どちらかといえばそう感じていない」を含む。)は 14.8%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っています。

一方で、「どちらともいえない」の回答が 38.6%と一定数あるため、今後一層の取組が必要であると考えられます。

障害者差別解消法や本市の障害者差別解消条例については、「知っている」人の割合（「聞いたことがあるが内容は知らない」を含む。）は、39.8%であり、「知らない」人の割合は 60.2%となっているため、今後一層の周知啓発が必要であると考えられます。

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと「そう感じている」人の割合（「どちらかといえばそう感じている」を含む。）は、25.0%であり、「感じていない」人の割合（「どちらかといえばそう感じていない」を含む。）は 23.8%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っています。

一方で、「どちらともいえない」の回答が 36.4%と最も高くなっているため、今後一層の取組が必要であると考えられます。

### 【共生社会を実現するために必要な取組について】

障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指している本市において、地域で生活する障害のある人とかかわっていく中で、自分自身が地域の一員としてできると思うことを尋ねたところ、「外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする」人の割合が 64.8%と最も多く、多くの方が外出先等で障害のある人が困っているときにかかわることができると考えていることが分かりました。

一方で、「障害のある人を支える地域活動やボランティア活動に参加する」(13.6%)、「簡単な身の回りの世話や外出時の付き添いをする」(11.4%)など、障害のある人の生活を直接手助けするようなかわりには、消極的な回答でした。

障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後さらに力を入れるべき取組を尋ねたところ、「安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する」(53.4%)、「障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」(47.7%)と続いています。これらについては、これまでも取り組んできた施策でしたが、今後も引き続き充実を図っていく必要があることが分かりました。

### 【その他ご意見について】

北九州市の障害福祉施策について、24 件のご意見をいただきました。

障害があっても一人の市民として、自分らしく生活できる地域社会の実現を進めるため、今後の障害福祉施策の参考としていきます。

【まとめ】

今回のアンケートでは、障害のある人への理解や関心、障害福祉施策の取組や共生社会を実現するための取組について、現時点で市民の実感を確認することができました。アンケート結果を「(仮称)北九州市障害者支援計画改定版」の策定にあたって参考とするとともに、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを進めるため、今後の障害福祉施策の推進に活かしていきます。

【市政モニターに関すること】

総務市民局広聴課 (TEL: 093-582-2527)

【アンケートに関すること】

保健福祉局障害福祉企画課 (TEL: 093-582-2453)



## 參考資料



1. 郵送によるアンケート形式の調査 調査項目一覧

北九州市障害福祉サービス等ニーズ把握調査 項目一覧表								
大項目	質問等項目	身体障害のある人	知的障害のある人	精神障害のある人	障害がある子ども	発達障害のある人	難病患者	
	調査ご協力をお願い	○	○	○	○	○	○	
	ご記入にあたって	○	○	○	○	○	○	
	目次	○	○	○	○	○	○	
自身のことについて	1	あなたは何歳ですか。	問1	問1	問1	問1	問1	
	2	あなたの性別をお答えください。	問2	問2	問2	問2	問2	
	3	あなたはどちらにお住まいですか。	問3	問3	問3	問3	問3	
	4	①あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。	問4	問4	問4	問4	問4	問4
		副問 あなたの身体障害者手帳の等級は何級ですか。						
		②あなたは療育手帳などをお持ちですか。						
		副問 あなたは療育手帳は何級ですか。						
		③あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。						
		副問 あなたの精神障害者保健福祉手帳の等級は何級ですか。						
	④あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。				×			
	副問 あなたの障害支援区分の等級は何級ですか。				×			
	⑤あなたは要介護度の認定を受けていますか。				×			
	副問 あなたの要介護度の等級は何級ですか。				×			
	5	該当する障害はありますか。	問5	×	×	問5	問5	×
	6	診断名は何ですか。	×	問5	問6	×	×	×
	7	障害があるとわかったのは何歳のときですか（最初に障害が生じたとき、診断を受けたとき、病気などの場合は発病したときの満年齢）。	問6	問6	問5	問6	問7	問5
	8	あなたは難病（障害者総合支援法の対象疾病）と診断されていますか。	問7	問7	問7	問9	問10	問6
		副問 診断されている疾患は何ですか。別紙にある「障害者総合支援法の対象となる難病等の範囲」の表の疾患番号でお答えください。	×	×	×	×	×	
9	あなたは知的な遅れなどに関する診断を受けていますか。	×	×	×	問7	問8	×	
	副問 あなたの診断名は何ですか。							
10	あなたは発達障害と診断されていますか。	問8	問8	問8	問10	問6	問7	
	副問 あなたの診断名は何ですか。	×	×	×				
11	あなたは精神障害と診断されていますか。	×	×	×	問8	問9	×	
	副問 あなたの診断名は何ですか。							
12	あなたは高次脳機能障害と診断されていますか。	問9	問9	問9	問11	問11	問8	
13	あなたが現在、受けている医療的ケア（家族が行う介助を含む）はありますか。	問10	問10	問10	問12	問12	問9	
14	あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。（幸せだと感じていますか）	問11	問11	問11	問13	問13	問10	

北九州市障害福祉サービス等ニーズ把握調査 項目一覧表									
大項目	質問等項目		身体障害のある人	知的障害のある人	精神障害のある人	障害がある子ども	発達障害のある人	難病患者	
暮らしについて	15		問12	問12	問12	問14	問14	問11	
		副問1							あなたは今後3年以内にどのような場所で生活したいですか。
		副問2							あなたが希望する場所で生活していくためには、どのような支援が必要だと思いますか。
	16		問13	問13	問13	問15	問15	問12	
		副問1							あなたの方の介助をしている主な人は誰ですか。
		副問2							その方は何歳ですか。
	17		問14	問14	問14	×	問16	問13	
		副問							あなたが希望する場所で生活していくためには、どのような支援が必要だと思いますか。
	通院状況について	18		×	×	問15	×	×	×
		19		×	×	問16	×	×	×
副問			あなたは最後に精神科・心療内科を退院してから、どのくらいたちますか。						
20		×	×	問17	×	×	×		
仕事について	21		問15	問15	問18	×	問17	問14	
		副問1							あなたは現在働いていますか。
		副問2							仕事の種類は何ですか。
		副問3							どのようにして仕事を見つけましたか。
		副問4							あなたはどのような形態でお仕事をされていますか。
		副問5							あなたは1週間あたり平均して何時間働いていますか。
		副問6							あなたは今の仕事をどのくらい続けていますか。
	副問7	あなたが働いている職場では、障害に対する理解や支援がなされていますか。							
22		問16	問16	問19	×	問18	問15		
学校や教育について	23		×	×	×	問16	問24	×	
	副問	あなたが働いていない主な理由は何ですか。							

北九州市障害福祉サービス等ニーズ把握調査 項目一覧表									
大項目	質問等項目		身体障害のある人	知的障害のある人	精神障害のある人	障害がある子ども	発達障害のある人	難病患者	
日中活動や外出状況について	24	あなたは日中（主に平日）どのように過ごしていますか。		問17	問17	問20	×	×	×
		あなたは日中（主に平日）どのように過ごしていますか。【就学前の方】		×	×	×	問17	問19	問16
		あなたは日中（主に平日）どのように過ごしていますか。【学校へ通っている方】		×	×	×			
		あなたは日中（主に平日）どのように過ごしていますか。【学校を卒業した方】		×	×	×	×		
	25	あなたは、買い物、通院、レジャーなど、1か月に何日くらい外出しますか。		問18	問18	問21	問18	問20	問17
	26	あなたが外出するときの手段は何ですか。		問19	問19	問22	問19	問21	問18
	27	あなたが外出するときは介助者が必要ですか。		問20	問20	問23	問20	問22	問19
		副問	あなたが外出するときの主な介助者はだれですか。						
28	外出するとき、特に困ったことはどのようなことですか。		問21	問21	問24	問21	問23	問20	
余暇活動や社会的活動について	29	余暇活動や社会的活動を行うには何が必要ですか。		問22	問22	問25	×	問25	問21
リハビリテーションについて	30	あなたは日常生活動作や体の動かし方など、補装具・福祉用具の使い方、健康管理など（リハビリテーション）に関して相談できる機関がありますか。		問23	問23	問26	×	問26	問22
		副問	あなたはリハビリテーションに関して誰に相談しますか。						
生活に関する悩みの相談について	31	あなたは生活に関する悩み、不安等は誰に相談していますか。		問24	問24	問27	問22	問27	問23
	32	今後、相談機関に、特に何が必要だと思えますか。		問25	問25	問28	問23	問28	問24
障害福祉サービス等の利用について	33	あなたは次の障害福祉サービス等を利用していますか。またこれから利用する予定はありますか。		問26	問26	問29	問24	問29	問25
		副問1	現在の利用状況						
		副問2	今後3年以内の利用予定						
	34	あなたは次の地域生活支援事業を利用していますか。またこれから利用する予定はありますか。		問27	問27	問30	問25	問30	問26
		副問1	現在の利用状況						
副問2	今後3年以内の利用予定								
35	「失語症者向け意思疎通支援者派遣事業（失語症のある人のコミュニケーションや外出等を支援する事業）」があれば利用したいですか。		問28	×	×	×	×	×	
障害のある人の人権や差別問題について	36	障害者差別解消法・北九州市障害者差別解消条例について知っていますか。		問29	問28	問31	問26	問31	問27
行政への意見・要望	37	最後に行政へのご意見・ご要望などがあれば、ご自由にお書きください		○	○	○	○	○	○



(参考) 質問項目一覧 ※回答の記入は7ページからお願いたします

- 【あなたご自身のことについておたずねします】
- 問1 あなたは何歳ですか。
- 問2 あなたの性別をお答えください。
- 問3 あなたはどちらにお住まいですか。
- 問4 あなたがお持ちの障害者手帳などについて、①～⑤のそれぞれにあてはまるもの○をつけてください。⑤は40歳以上の方のみお答えください。
- 問5 該当する障害はありますか。
- 問6 障害があるとわかったのは何歳のときですか。(最初に障害が生じたとき、診断を受けたとき、病名などの場合は発病したときの年齢)
- 問7 あなたは難病(障害者総合支援法の対象疾病)と診断されていますか。
- 問8 あなたは難病と診断されていますか。
- 問9 あなたは高次脳機能障害と診断されていますか。
- 問10 あなたが現在、受けている医療的ケア(家族が行う介助を含む)はありますか。
- 問11 あなたは現在の生活にどの程度満足していますか。(幸せだと感じていますか)
- 【あなたの暮らしについておたずねします】
- 問12 あなたは現在、どのように暮らしていますか。
- 副問1 あなたは今後3年以内にごどのような場所で生活したいですか。
- 副問2 あなたが希望する場所で生活していくためには、どのような支援が必要だと思えますか。
- 問13 あなたの介助をしている主な人は誰ですか。
- 副問1 その方は何歳ですか。
- 副問2 その方の健康状態はいかがですか。
- 副問3 その方が仕事や病気のと きや外出で不在のときは、主に誰があなたを介助していますか。

問14 福祉用具、遠隔で見守りやコミュニケーション可能なロボット、スマートフォンなどを使った音声操作、体重管理等の健康管理アプリなど生活における環境調整や健康づくりに関して、介護テクノロジーを活用した市販・機器に関心はありますか。また、活用したことはありませんか。

副問1 介護テクノロジーを活用した用具・機器を利用するにあたり、あなたはどのようなことが気になりますか。

【あなたの仕事についておたずねします】

- 問15 あなたは現在働いていますか。
- 副問1 仕事の種類は何ですか。
- 副問2 どのようにして仕事を求めましたか。
- 副問3 あなたはどのような形態でお仕事をされていますか。
- 副問4 あなたは1週間あたり平均して何時間働いていますか。
- 副問5 あなたは今の仕事をどのくらい続けていますか。
- 副問6 あなたが働いている職場では、障害に対しての理解や支援がなされていますか。
- 副問7 あなたが現在働いていない主な理由は何か。
- 問16 あなたが働く ことと考える場合、特にどのようなことが必要ですか。

【あなたの日中活動や外出状況についておたずねします】

- 問17 あなたは日中(主に平日)どのように過ごしていますか。
- 問18 あなたは、買い物、通院、レジャーなど、1か月に何回くらい外出しますか。
- 問19 あなたが外出するときの手段は何ですか。
- 問20 あなたが外出するときは介助者が必要ですか。
- 副問1 あなたが外出するときの主な介助者は誰ですか。
- 問21 外出するとき、特に困ったことはどのようなことですか。

【余暇活動や社会的活動についておたずねします】

問22 余暇活動や社会的活動を行うには何が必要ですか。

【リハビリテーションなどについておたずねします】

問 23 あなたは「日常生活動作や体の動かし方など、補装具・福祉用具の使い方、健康管理など（リハビリテーション）」に関して相談できる機関がありますか。  
 副問 あなたはリハビリテーションに関して誰に相談しますか。

【生活に関する悩みなどの相談についておたずねします】

問 24 あなたは生活に関する悩み、不安等は誰に相談していますか。  
 問 25 今後、相談機関に、特に荷が重畳だと感じますか。

【障害福祉サービス等の利用についておたずねします】

問 26 あなたは次の障害福祉サービス等を利用していますか、またこれから利用する予定はありますか。①～④のそれぞれのサービスについて、「現在の利用状況」と「今後3年以内の利用予定」の両方についてお答えください。

問 27 あなたは次の地域生活支援事業を利用していますか。またこれから利用する予定はありますか。①～④のそれぞれのサービスについて、「現在の利用状況」と「今後3年以内の利用予定」の両方についてお答えください。

問 28 「失語症向け意思疎通支援者派遣事業（失語症のある人のコミュニケーションや外出等を支援する事業）」があれば利用したいですか。

【障害のある人の人権や差別問題についておたずねします】

問 29 障害者差別解消法・北九州市障害者差別解消条例について知っていますか。

【最後に行政へのご意見・ご要望などがあれば、ご自由にお書きください】

かいどう きにゆう  
**回答の記入は7ページからお願ひします**  
 ねが

このページは白紙です  
 かいどう し ペー ジ  
**回答は次ページからお願ひします**  
 ねが